


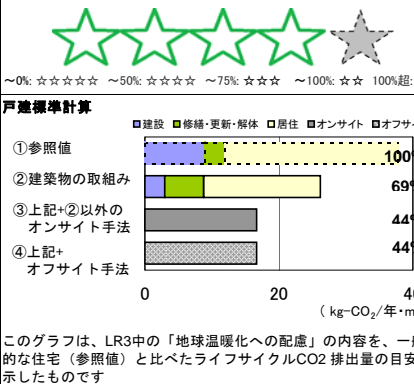
1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	ソーラータウン府中16号棟	仕様等の確定状況	建物の仕様	確定	
竣工年月	2013年7月 予定	建物の仕様	持ち込み家電等	確定	
建設地	東京都府中市美好町二丁目	建物の仕様	外構の仕様	確定	
用途地域	第一層低層住居専用	〈備考〉			
省エネルギー地域区分	IV				
構造・構法	木造				
階数	2	評価の実施日	2013年5月1日		
敷地面積	128 m <sup>2</sup>	作成者	戸01694-14 城丸 智也		
建築面積	52 m <sup>2</sup>	確認日			
延床面積	109 m <sup>2</sup>	確認者			
世帯人数	4				

### 2-1 すまいの環境効率(BEEランク&チャート)



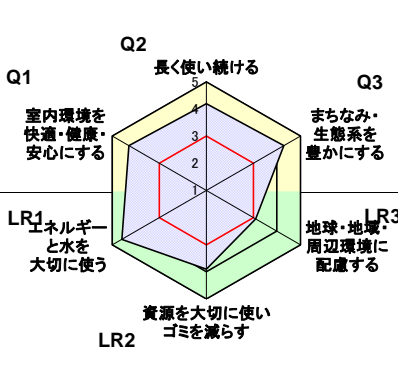
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B': ★★★★★ B: ★★ C:

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)



戸建標準計算  
①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

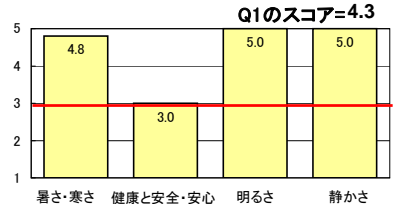
### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



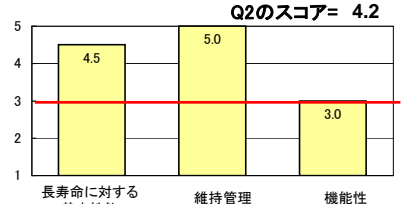
### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

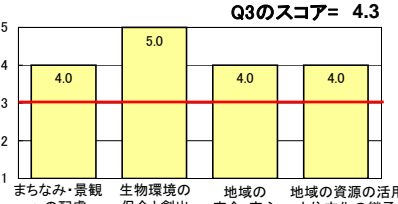
**Q1 室内環境を快適・健康・安心にする**  
Q1のスコア=4.3



**Q2 長く使い続ける**  
Q2のスコア= 4.2

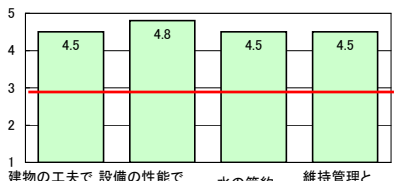


**Q3 まちなみ・生態系を豊かにする**  
Q3のスコア= 4.3

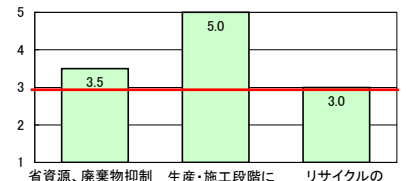


#### LR 環境負荷低減性

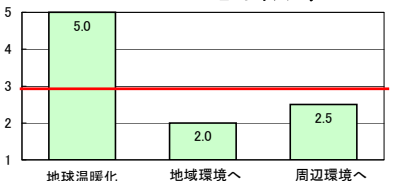
**LR1 エネルギーと水を大切に使う**  
LR1のスコア= 4.6



**LR2 資源を大切に使いゴミを減らす**  
LR2のスコア=3.9



**LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する**  
LR3のスコア= 3.1



### 3 設計上の配慮事項

<p><b>総合</b> 気持ちよく長く使い続けられることがテーマの住宅である。構造は外周部と1本の大黒柱のみで持たせることで、将来の間取りの変更へ対応を可能にした。長期の使用を前提に、劣化の軽減、維持管理の容易さも重点においた。断熱性を高めつつ、パンプソーラーを採用し、建物全体の環境を向上させた。周辺、ひいては地球環境へも配慮したシステムであるため、少ないエネルギーでも快適さを保ち、緑をうまく配することで心地よい環境を作っている。</p>	<p><b>その他</b> これからの生活環境、ひいては地球環境を考慮した新しい住宅を提案した。建設過程における運送エネルギーの削減、生活スタイルではパンプソーラーやソーラーパネルなど、枯渇資源である化石燃料から自然エネルギーへのエネルギーシフトの可能性と現実性を盛り込んでいる。</p>	
<p><b>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする</b> 断熱材は性能の高いものを選択した。サッシは全て断熱性の高いサッシ、ガラスはLow-Eガラスとして性能表示等級(温熱等級)4を満たすようにした。暖房はパンプソーラーを採用し住宅全体の室温の均質化を図り快適な室内環境を実現した。夏季には西側の窓前にグリーンカーテンを植生させ、室内への日射の遮蔽、涼風を期待する。</p>	<p><b>Q2 長く使い続ける</b> 長く使い続ける為に、劣化の軽減等級3、維持管理等級3、耐震等級3を確保した。外壁通気工法での施工により躯体の耐久性を上げられる。また外周部と1本の大黒柱という構造特徴により、家族構成の変更に伴う間取り変更の対応が容易である。</p>	<p><b>Q3 まちなみ・生態系を豊かにする</b> 外装は周辺の住宅環境と調和した形状、色彩とした。また、北側公園から続くように樹木を配した。加えて、建物周辺に人が十分通れる程度の空きを確保し、災害時の避難が有効にできるようにした。</p>
<p><b>LR1 エネルギーと水を大切に使う</b> 性能表示等級(温熱等級)4を満たすことで建物の熱負荷を軽減した。また節水タイプのキッチン水栓、シャワーのフックを使用して節水に努めた。太陽光発電システムを採用し、ガス等によるエネルギー供給を大きく削減することができる。</p>	<p><b>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす</b> 躯体全体に多摩産材を使い、地産地消を実現した。そのため木材運搬に係るCO<sub>2</sub>も削減している。屋根・外装材はガルバリウム鋼板、内装下地は石膏ボード、内装仕上げに和紙クロスを使用し、省資源・廃棄物抑制に努めた。</p>	<p><b>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する</b> 敷地内は形状を変更することなく保全に努め、隙間にタマリユを植栽した。夏季には西側窓にグリーンカーテンを植生させる。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (すまいの環境品質), L: Load (すまいの環境負荷), LR: Load Reduction (すまいの環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (すまいの環境効率)  
 ■CASBEE全体の表記ルールに従えば、CASBEE戸建-新築の場合、BEE<sub>H</sub>、Q<sub>H</sub>、LR<sub>H</sub>などとすべきであるが、本シート上では簡略化のためHを省略した  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは住宅の部材生産・建設から居住、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量であり、ここでは住宅の寿命年数と延床面積で除した値を示す  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q<sub>H</sub>2、LR<sub>H</sub>1中の住宅の寿命、省エネルギーなどの項目の評価結果から自動的に算出される(「戸建標準計算」の場合)  
 ■ライフサイクルCO<sub>2</sub>の算定条件等については、マニュアルおよび「CO<sub>2</sub>計算」シートを参照されたい